

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	継続教育小委員会	主 査 名：五十嵐 健
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会	委員長名：西谷 章
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	技術者の継続教育の重要性は高まっているが、継続教育の今後のあり方と進むべき方向について調査研究を行うことを目的に 2003 年 4 月に設置された。03 年度はその初年度として予備調査を、04 年度はニーズと課題についてアンケートを行い、05 年度は継続教育の在り方についてヒアリング調査と検討を、06 年度に継続教育の在り方と方策に関する調査研究のまとめを行う。	
委員構成 (委員名 (所属))	五十嵐健 (九州国際大学)、秋山 恒夫 (職業能力開発総合大学校)、井出尻 直美 (雇用・能力開発機構高度職業能力開発促進センター)、加藤 幸治 (加藤計画工房)、小黒 利昭 (住宅総合研究財団)、鈴木 要 (芝浦工業大学)、竹内 壽一 (竹内建築総合研究所)、西村 直也 (芝浦工業大学)、平田 京子 (日本女子大学)、榊田 嘉生 (教育と情報の研究所)、三輪 真之 (東京デザイン専門学校)、柳川 裕 (建築技術支援協会) 12 名	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	4 月 12 日 4 名、5 月 11 日 5 名、6 月 15 日 8 名、7 月 16 日 8 名、8 月 30 日大会 PD 46 名、9 月 14 日 7 名、10 月 20 日 (台風のため中止)、11 月 10 日 5 名、12 月 7 日 6 名、1 月 14 日 9 名、2 月 18 日 8 名、3 月 22 日 6 名 (11 回・延べ 112 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建築雑誌 4 月号今伝えたいトピックスに 03 年度の世に調査の検討をもとに「キャリア開発一働きだした継続教育の行方」をまとめ掲載。 ● 大会 PD「キャリア形成から学ぶ継続学習のあり方教育」を開催、キャリア開発の機会としての継続教育のあり方を討議し、職業生涯にわたる継続教育のあり方を提起した。 ● 前年度、小委員会の活動領域を拡大するため特別研究「建築教育の需給構造と建築職能の将来像」を提案し、本年度より本小委員会を核に同特別研究委員会を立ち上げた。 ● 9 月からは特別研究「建築教育の需給構造と建築職能の将来像」の②産業界の動向調査WGの役割を兼任し、企業及び就業者に対する継続教育実態及びニーズに対するアンケートを実施し、現在、結果の分析中。 <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当初活動計画の、1) 技術技能小委員会および他委員会と共同して特別研究委員会「建築教育の需給構造と建築職能の将来像」の設置と、2) 大会研究集会の実施については上記報告の通り当初の活動ができた。 ● 研究成果の発表として第 5 回建築教育シンポジウムにて年間テーマの研究成果の発表を予定していたが、同シンポジウムにその機会が無かった。研究成果の発表については最終年度に、特別研究報告として纏めて行いたい。
その他評価すべき事項	特別研究のアンケート調査では、送付数 1100 通に対し、回答数 476 通で回答率が 4 割りを超え、就業者の関心の高さが分かった。